

平成30年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 平成30年5月31日（木）午後7時から午後8時30分
- 2 開催場所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員16人（欠席2人）
市長、副市長、教育長、市長戦略監、企画部長、生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、事務局（行政経営課長、行政経営課長補佐、行政経営課主査、行政経営課主事）
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 委員の委嘱
 - (4) 自己紹介
 - (5) 次回テーマについて
 - (6) その他
 - (7) 閉会
- 5 会議概要
 - (1) 開会
行政経営課長から開会

(2) 市長挨拶

皆さんこんばんは。平成30年度第1回未来ビジョン会議開催にあたりましてご挨拶を申し上げます。

この度、未来ビジョン会議委員にご就任をいただきました皆様、そしてまた昨年からも引き続きお願いいただいている皆様、ご多用にもかかわらず本会議に参加していただきまして誠にありがとうございます。

行政運営にかかわること、それから皆さんの持つてる夢、そういうものを実現するために色々と意見を交わしていきたいというふうに思っております。

昨年、8月に第1回を始めまして、手探りでいろいろとやってきました。本日もこの後の進め方を説明していただきますけれども、一人一人の発言量が多くなるようにグループワーキングみたいな形をとっていきたいと思います。是非、忌憚のないご意見をお聞かせ願えて、その中でいろんなプランと言うかみなさんの夢を実現できるものに変えていきたいというふうに思っております。

これは元々私が公約として掲げた、若い世代の声、今まで届かなかった声、これを反映させていくという、ボトムアップというふうに表現しておりますけれども、そういったもので皆さんがやる気が出せるような形に変えていきたいということでございますので、是非お願いしたいと思います。

ちなみに昨年度は8月からにもかかわらずに11回開催させていただきました、大変ご多用の中を多くの皆さんにご参加いただきました。その中では子育て施策、それから伊東ブランドの展開、そういったものを主な議題といたしました。

会議の中でいただいたご意見やご提案につきまして、早速反映できるものを作成しました。これは子育て世代向けのパンフレットのようなものを皆さんのご意見を基に作りしました。従来は見てどこかに問い合わせるようなものが多いと思いますが、ひとつひとつにQRコードを貼り付け、必要なものを随時キャッチできるというものになっておりますので、こういった形に変えていくのが、まさしくこの未来ビジョン会議ではないかというふうにも思っております。

この会議において、本市の未来を担う様々な立場にある若い世代の皆様の意見を直接伺いまして、私が市長として掲げています伊東の魅力を発信し、文化力を高め、観光の振興と産業の育成によってみんなが夢を形にできる、未来を拓く、そのために共に協力していきたいと思っております。

冒頭にも申しましたけれども、忌憚のないご意見を出していただき、そしてまとめ上げていただきますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶といたします。どうぞ皆さんよろしくお願いたします。

(3) 委員の委嘱

- 小野市長より委員に対し委嘱状交付（省略）
- ※委員の任期は、平成31年3月31日まで

(4) 自己紹介

- 各委員及び当局並びに事務局から自己紹介（省略）

— 市長、副市長、教育長 公務のため退席 —

(5) 次回のテーマについて説明

市長戦略監： それでは、代理の座長として会議を運営させていただきます。

次回以降、皆様に議論いただくテーマにつきまして、私から説明をさせていただきます。

テーマにつきましては、伊東市に必要な図書館・文化ホール建設の方向性についてお願いしたいと思います。皆さんご存知だと思いますが、現在、文化活動の拠点となっている主な施設といたしまして、かなり老朽化が進んでいる観光会館、また、伊東図書館などがあります。非常に耐久性等問題も生じておりますことから、立て替えを含めた対応が急務となっております。本日、図書館・文化ホール建設の担当課である生涯学習課から杉山課長、鈴木課長補佐に出席いただいております。この後生涯学習課から、現在の状況と方向性について詳しく説明をいたします。その後、今後の流れといたしましては、本日説明をした内容をもとに次回以降グループワークを行っていただきまして、グループごとに伊東市に必要な図書館・文化ホール建設の方向性、これをご提案いただきたいと思います。いただいた提案につきましては、今後の図書館・文化ホール建設の参考とさせていただきます。それでは生涯学習課から伊東市に必要な図書館・文化ホール建設の方向性につきまして説明をお願いいたします。

生涯学習課： 皆さんこんばんは。市長戦略監から紹介いただきました、生涯学習課の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様のお手元にあります図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性について、主担当として取りまとめさせていただきましたので、私からご説明をさせていただきます。それではすいませんが座って説明させていただきます。

昨年度から図書館・文化ホールの建設に向けた取り組みが始まり、昨年度図書館・文化ホール建設に向けた観光課、都市計画課、建築住宅課、生涯学習課の担当職員で構成した庁内のワーキンググループを設置し、昨年5月からこの間の3月まで合計8回の会議を行い、建設候補地案の選定のための協議を進めてまいりました。そしてこの3月に皆様方にお配りしておりますこの方向性についてということで取りまとめまして、これには建設候補場所案の5箇所が記載されております。この5箇所から今後建設候補地を考えていくこととなりますので、そのための資料と考えていただければと思います。

それでは資料に沿って説明をさせていただきます。二つあるかと思いますが、建設候補地の調査ではない方の資料をご覧くださいと思います。まずページをめくっていただきまして、目次があるかと思いますが、このような構成をしております。この資料の概要でございますけれども、図書館・文化ホールを新たに建設するにあたり、実際建設候補地が決まっておりました。建設候補地の案を考えるための資料という位置づけになります。建設候補地場所として先ほど申したとおり、市内5箇所、伊東駅前、マンダリンホテル跡地、市民グラウンド、アピタ交差点南側、伊豆高原駅周辺をワーキンググループにより抽出し、その場所ごとの現在の状況ですとか、整備の方向性、建設する場合のメリットデメリットが中心の内容となっております。そのため、この資料におきましては、どのような施設にするかという具体的な検討はしておりません。どのような施設にするかの方向性を記載するに止めておりますのでご承知おきください。具体的な施設や設備につきましては、今後策定される基本構想ですとか基本計画の中で考えていきます。当然、市民の皆様方の意見なども踏まえながら考えていきますので、ここではそういった詳細な検討はしておりませんので、その点をご承知置いただければと思います。

資料に戻りまして、まず1ページ目からご紹介いたします。

図書館・文化ホールの整備について文化振興基本構想や公共施設等総合管理計画の観点から記載しておりまして、本資料が今後の整備の方向性を整理した内容であること、この資料をたたき台にして市民の皆様などから意見を伺いながら建設工事を考えていく旨を記載しております。

2ページ目から5ページ目にかけては、市内の施設の状況について記載をしております。2ページ目から観光会館、観光会館別館、生涯学習センター中央会館、図書館の利用状況などを掲載しております。

まず2ページ目の観光会館でございますが、延床面積約4,600平米、最大1,000人収容できる施設となっております。ホールの他、第1から第4の会議室がございます。ホールの利用人数はグラフにもある通り横ばいでございますけれども、若干ではございますが会議室の利用人数は増加傾向にあるのかなというところですが、ただし記載にありますとおり、老朽化が進んでいることもあるか

もしれないですが、利用率としては2から3割程度に止まっている現状でございます。ホールにつきましても1回500人以上の利用はほとんどないというのが現状でございます。

3ページ目、観光会館別館になります。こちら延床面積800平米弱、会議室の扱いとなっておりますが300人弱を収容できる建物となっております。こちらの利用人数につきましては、平成26年度以降増加傾向にございます。なぜ増加しているのかについては、分析をしておりますので理由としては分かりません。

利用回数・利用率とも平成24年度以降、トレンドとしては増加傾向にございます。観光会館に比べて利用率は10ポイントほど高くなっているという現状がございます。

ページをめくっていただきまして4ページ目、生涯学習センター中央会館になります。これは次の図書館の建物と同じ建物になります。延床面積としては約1,500平米、会議室の他、記載のとおり各種利用別に部屋がございます。利用人数としては減少傾向にありますけれども、利用回数ですとか利用率としては横ばいの現状でございます。最後に記載がございますけれども、近年生涯学習活動のニーズの多様化といったこともございますので、今後こういったニーズへの対応も考えていく必要があるのかなというところでございます。

続きまして5ページ目、図書館に移ります。こちらは先ほどの生涯学習センター中央会館の中にある図書館になります。こちらは延床面積約950平米になりますが、これは閉架書庫も含めての面積になります。蔵書数は増加傾向にありますが、貸出冊数としては平成24年度から見ると減少傾向になっております。現状20万弱の蔵書がありますが、実際、利用者の目に触れている、いわゆる図書館として掲示されている物としては約4割しか出ておりません。6割の12万冊は閉架書庫といった地下の書庫に収納されているというのが実情でございます。多くの皆様から色々ご意見いただいておりますけれども、利用スペースが狭いですとか、駐車場が狭いとか、そういった課題がございます。以上が現状の施設の状態となります。

ページをめくりまして6ページ目になります。ここでは新たに整備する施設に盛り込む機能の考え方を、文化ホール機能、生涯学習機能、図書館機能、その他機能の4つの機能から示しております。

まず文化ホール機能でございますが、芸術文化の振興と市民活動の活性化を柱に考えて行くこととなります。文化芸術の鑑賞機会の提供や文化活動の練習発表といった場所を提供していくほか、市民の文化活動をサポートする場として提供していく施設を目指して行くこととなります。続きましては生涯学習機能でございますが、市民の皆様の生涯学習活動ができる場を提供し、それらがより一層充実する場を提供する施設にしていきたいと考えております。3つ目の図書館機能でございますが、図書館は情報提供拠点でございますので、図書館資料の充実というのは当然ですけれども、様々な利用者がいらっしやると思いますので、皆さんが利用しやすい環境を整備することなどを目指していきます。最後にその他機能になりますが、複合施設になった場合は利用者の利便性の向上なども勘案しな

がら、こういった機能を導入していくかということを検討していくこととなります。

7ページ目、8ページ目でございますが、これら4つの機能を盛り込む場合に、機能別にどのような施設になるかの方向性を示しております。

まず7ページ目でございますけれども、文化ホールの機能としてリハーサル室などを設置していくほか、子育て世代の利用も促進するよう、親子の方でも鑑賞できるホール親子室の設置なども検討していきたいということでございます。またスタジオ、イベントスペース、託児室などの設置も検討していきます。規模的には、客席としては600人から800人程度の客室で想定をしていくという考えであります。生涯学習機能としましては、様々なグループの活動場所として提供できるよう、これまで生涯学習センター中央会館にあった施設だけではなく、文化ホールの方にも記載がございますけれども、スタジオですとか託児室といった様々な施設の設置を検討していきたいと考えております。図書館機能としましては、やはり人口に見合った図書館サービスができる水準を目指していくということです。開架冊数（利用者の目に触れる冊数）や、情報検索、視聴覚資料の視聴など、図書館として必要な機能の設置を検討していきます。記載にはございませんけれども、現在のところ想定される規模としましては開架図書を20万冊、延床面積を2,500平米程度の図書館として考えているところでございます。

最後に8ページ目、その他機能になります。文化ホールの利用があるときだけ賑わうというのではなくて、日常的に文化ホールが賑わっていることができるような施設にしていくことを検討していきたいということでございます。日常的に賑わっているということは多くの方々に利用してもらうきっかけにもなるかと思っております。そのようなことから、多目的広場ですとか、レストラン、喫茶、あるいはコンビニ、そういったテナントなどの設置も検討し、本市の交流にぎわい施設となるよう考えていければと思っております。また建設場所にもよりますが、市の出張所ですとか、観光案内所、あるいは防災施設の設置も検討していくこととなります。ここまでが考え方の記載になります。

9ページ目です。A3の横のページになってるかと思っておりますが開いてご覧ください。9ページ目からは冒頭申し上げた5箇所の比較表になります。9ページ目では抽出した5箇所、伊東駅前、マンダリンホテル跡地、市民グラウンド、アピタ交差点南側、伊豆高原駅周辺の現在の状況を表にまとめたものになります。

伊東駅前でございますが、伊東駅に隣接しておりまして道路と一体的に再開発をして敷地などを確保する必要があります。大体6,000平米の敷地を確保できるのではないかという状況です。ただしこの場所につきましては、津波浸水地域や土砂災害警戒区域、あるいは噴火の影響の範囲などの地域になっております。

マンダリンホテル跡地でございますが岡地区でございます。現在のところ生涯学習センター中央会館と図書館がございますが、そちらの仮設駐車場として利用しております。敷地面積としましては約4,000平米とこの5箇所の中では一番狭い場所になります。ここは津波浸水域、洪水浸水地域、噴火の影響の範囲という地域になっております。

市民グラウンドでございますが玖須美地区にございまして、鉄道駅としては最寄り駅が川奈駅になります。駅からは一番遠い場所になります。市民グラウンドでございますけれども、広域避難場所と臨時のヘリポートにも指定されております。土砂災害などの危険地域ではありませんけれども、噴火の影響の範囲に入っております。

アピタ交差点南側でございますが、地区としては吉田地区になります。アピタ前に十字路の交差点があるかと思いますが、アピタ側の方から見て右斜め前の現状林になってるところになります。小さい小山になってますので大規模な造成をしなくてはならない状況にございます。

最後に伊豆高原駅周辺でございますが、こちら八幡野地区で名称の通り伊豆高原駅周辺になります。こちらは民有地でございますので土地の買収をしなければならぬ現状ではあります。しかし周囲の自然環境を生かした文化ゾーンの形成が期待できるのかなと思います。この地域は特に災害発生による指定がない地域になっております。

市民グラウンド、アピタ交差点南側、伊豆高原駅周辺の最後の三つでございますが、大体2万平米以上の敷地がございまして面積的にはこの三つは十分な敷地が確保出来るのかなというところでございます。以上が5箇所の現状をまとめた表になります。

続きまして10ページ目になります。こちらA3のページになります。こちらではこの5箇所を各々どのような施設、どのような機能性、先ほど6から8ページで示している4つのどういった機能が考えられるのか、その方向性を示しております。表を場所ごとに縦に見ていきたいと思っております。

まず伊東駅前でございますが、整備の方向性としてはいわゆる伊東市の玄関口ということで賑わい空間の創出、市街地の観光の活性化を図る複合施設になることが期待できるのかなというところです。利用者の想定としては市民だけではなく観光客、あるいは市外からの利用者も想定できます。整備する基本施設としましては、文化ホール、生涯学習施設、図書館施設が想定されます。その他施設としましては、市民サービスの施設、そういったものをはじめとして観光関連の施設の導入なども想定できるのかなというところです。防災関連施設としましては、2階以上の避難になりますけれども、津波避難施設としても期待されるのかなというところです。ただ、駐車場につきましては敷地が非常に限られてるということもございますので、立体駐車場の整備を検討する必要があるのかなというところでございます。この後、マンダリンホテルの跡地でも触れさせていただきましたけれども、マンダリンホテル跡地は先ほど4,000平米しかないと話しましたが、マンダリンホテルの跡地は敷地面積の関係で図書館施設を中心とした整備しかできないと考えられるので、文化ホール施設の導入はマンダリンホテル跡地には考えておりません。そのため、マンダリンホテル跡地を図書館施設の建設というふう考えた場合は、基本的には文化ホール施設を中心とした施設となりまして、図書館施設を導入する場合は図書館の分館として検討していくことになるのかなというところでございます。なお下の方に黒丸とか、白丸とかの表がございまして、こちらは上部の説明を記号化したものですので、この表についての説明は省略させていただきます。

続きまして、マンダリンホテル跡地でございますが、先ほど申した通り図書館施設を中心とした施設を想定しております。そのため、利用者としましては市民の方が中心になるのかなというところでございます。基本施設としましては、図書館施設のほか、会議室などの生涯学習施設が想定されるところでございます。また最近建設される図書館につきましては、コーヒーショップなどの飲食ができるお店などが併設されることが非常に多くなってきております。ここにも同様に、こういった施設を整備することで交流賑わい施設の一つとしても想定できるのかなというところでございます。また防災関連施設としましては、ここも津波避難想定域となっておりますので、津波避難施設としても考えられるかと思いません。駐車場につきましては、敷地面積の関係から50台から100台程度確保できるのかなというところではございます。図書館施設の利用のことを考えれば対応できる台数ではないかと考えております。繰り返しになりますけれども、ここに図書館を建設する場合は、文化ホール施設は別の場所に整備するということとなります。

三つ目の市民グラウンドでございますが、文化ホール、図書館と合わせた施設整備が想定できます。利用者の想定でございますけれども、市民、観光客、市外からの利用者なども期待できます。基本施設でございますけれども、文化ホール、生涯学習施設、図書館施設、敷地がございますので全ての施設の導入ができるのかなというところではございます。防災関連施設としましては、風水害、地震、そういった災害の避難スペースとしても利用が期待できるのかなというところではございます。駐車場でございますけれども、広い敷地がございますので平面・平地の駐車場として200台程度の駐車場が確保できると思われまます。こちらも伊東駅前同様、マンダリンホテル跡地が図書館になった場合は文化ホールの設備を中心に検討していくこととなります。

アピタ交差点でございますけれども、地理的に市民グラウンドに近いということもございませますので、項目としては市民グラウンドと同様になりますので説明は省略させていただきます。

最後に伊豆高原駅周辺でございますが、伊豆高原は多くの来誘客がございませます。更に来誘客を呼び込む集客施設として期待できるのかなという風に思いません。また、伊豆高原の文化ゾーンを充実させる施設になるということも想定できるのではないかと思います。利用者の想定も、市民だけでなく観光客・市外の方が想定できるのではないかと思います。こちらも、文化ホール、図書館施設、全ての施設の整備が検討できます。ただ、その他施設としまして、市の施設でございますけれども、対島出張所が隣接しているということもございませますので、市の施設を併設する場合は機能分担なども検討していく必要もあるかと思いません。防災関連施設としては、特に災害が発生する危険がないところでございますので、避難地の一つとして想定できるかと思いません。駐車場につきましても敷地がありますので十分な施設が取れるかと思いません。

各場所の検討としては最後になりますが11ページをご覧ください。こちらもA3横になります。こちらは各建設候補地の比較の表になります。各場所を5つの項目、施設へのアクセスのしやすさの利便性、災害時の防災施設としての利用可能性の防災性、整備可能な施設の検討の機能性、まちづくり・観光の視点からの発展性等の検討の発展性、用地取得や敷地整備の検討の経済性の5つの項目か

ら比較検討し、建設する場合のメリットデメリットを抽出しております。こちら
も場所ごとに表を縦に見ていただければと思います。

まず伊東駅前でございますけれども、利便性のメリットは伊東駅前でございます
ので、市民の方だけではなくて市外の方々の利用も容易であるという点になろ
うかと思えます。デメリットでございますが、やはり車で利用される方も多くい
らっしゃいますので、道路の配置の関係上、渋滞することが見込まれるのではな
いかという点になります。デメリットとしては、そういった道路の関係が大きい
のかなというところであります。評価としては、伊東市のある意味玄関口になり
ますので、建設した際の効果としては非常に大きいと考えられます。防災性のメ
リットでございますけれども、津波避難施設が確保されるほか、大雨などで鉄道
の運転が見合された場合には、滞留観光客の一時避難場所としても活用できる
という点でございます。デメリットとしましては、先に説明した通り、複数の災害
発生危険区域にありますので、その点がデメリットになろうかと思えます。機能
性のメリットとしましては、伊東駅でございますので、市民だけではなくて観光
客の方々の利用も期待できますので、この5箇所の中でそういった意味では最も
高い場所になるのかなと思えます。デメリットとしましては、やはり敷地の問題
があって、駐車場の確保というところがデメリットになろうかと思えます。発展
性のメリットとしましては、伊東市の中心市街地ということで、中心市街地の再
整備の柱になる施設として期待できるのかなというところがございます。発展性
という意味では、この場所で建設した場合のデメリットとしては考えにくいとい
うことで横棒が引いてございます。やはり中心市街地の再整備という点では非常
に大きいのかなというところです。経済性でございますけれども、一部市有地と
いうこともございますので、こちらはメリットとして市有地を使えるというところ
でございます。こちらはデメリットが逆に多くあると考えておまして、駅前
に建設となりますとやはり再開発のための民有地の買収や道路の付け替え、そう
いったものを考えていく必要があります。また、駐車場の確保も必要になります
ので、その点がやはりデメリットとなりまして費用が多くかかるということがデ
メリットとなっております。

続きまして、マンダリンホテル跡地でございますが、利便性のメリットとしま
してはやはり市街地にある点ということになります。デメリットとしましては、
こちらは南伊東駅が最寄り駅になりますけれども、ちょっと駅から離れてるとい
う点がデメリットになるのではないかなというところです。防災性としましては
津波避難施設として期待できるのではないかなということ。デメリットとして
は複数の災害発生危険区域のところに位置しているということがデメリットになり
ます。機能性でございますが、メリットとしましては駐車場が確保できるとい
うところになります。デメリットとしましては、やはり敷地面積が小さいというこ
とで文化ホールの建設が不可能になるというところをデメリットとして挙げてお
ります。発展性としましては図書館の建設を想定していますので、地域の教育活
動などの施設が充実していくという点をメリットとして挙げております。デメリ
ットとしましては、位置的になかなか観光客の方ですとか市外の方が行きにくい
のかなという点をデメリットとして挙げております。経済性でございますけれど
も、この土地は市有地でございますので土地の買収に関しては費用がかからな

いという点がございます。ご覧になってお分かりだと思えますけれども特に造成がかからないというところがございます。デメリットとしましてはこの場所を図書館にしかできない、そういった面積しかないということが挙げられますので、文化ホールとの併設ができないという点をデメリットとして挙げております。

続きまして、市民グラウンドになります。利便性としましては、市域の中心にあり、市内各地域からは平等な距離になりますので、距離的に偏りがないという点がメリットになります。デメリットとしましては、最寄り駅が川奈駅になりますので、ちょっと駅から離れているということ、また近隣道路が狭いということもありますので車の渋滞が想定される点がデメリットになります。防災性でございますが、風水害、地震などの危険地域ではございませんので避難スペースとして確保される点がメリットになります。デメリットとしては、噴火の影響に入っている点ということになります。機能性として、やはり広い敷地がございまして、多くの台数の駐車場が確保できるということ、多目的広場などの整備ができるという点がメリットになります。デメリットとしましては、グラウンドを一つ潰すということになり、グラウンドを別の場所に建設する必要が生じてきますので、その点がデメリットになります。発展性として、地域の文化活動や生涯学習活動が充実していくことになるという点がメリットになります。デメリットとしましては、近隣には南中学校や南小学校がございまして、また住宅地でもございますので、生活環境への影響というところが懸念される点がデメリットになります。経済性でございまして、一部市有地で造成をする必要はない点がメリットになります。デメリットとしましては、先ほど言った通り周辺道路の整備が出てくるところがデメリットになります。

次にアピタ交差点南側です。利便性と防災性につきましては、先ほどの市民グラウンドと同様になります。機能性でございまして、こちらも多く台数の駐車場が確保できる点がメリットになりますけれども、やはり近隣にアピタさんがございまして、交流賑わい施設を導入する場合には競合する可能性があるという点がデメリットということになります。発展性につきましては、市民グラウンドと同様になります。経済性でございまして、ほぼ市有地である点はメリットとしてありますけれども、小山になってる、林になってるということもありますので、大規模な宅地造成が必要になってきます。あるいは道路整備なども必要になってきますのでこれらの点がデメリットとして挙がります。

最後に伊豆高原駅周辺でございまして、利便性としてはやはり伊豆高原駅に隣接していますので観光客の方々の利用は非常に容易になるのかなと、その点をメリットとして挙げております。ただ、市の南部地域になりますので、市域としては偏ったところに位置しますので、その点は少しデメリットになるのかなというところですね。防災性でございまして、この地域は災害発生危険区域になっておりませんので、大雨等々で鉄道の運転が一時見合わせになった場合は、滞留観光客の方々の一時避難場所としても期待できるという点がメリットとして挙げられます。危険区域になっていないということもありますので、デメリットとしては特にないのではないかとということで横棒にしております。機能性としてやはり敷地が広くございまして、多くの台数の駐車場が確保できること、あるいは多目的広場を整備できることがあります。そういった多目的広場を利用す

ることで多様なイベントも開催できるのかなと、こういった点がメリットになります。デメリットにつきましては、伊豆高原駅にも商業施設等々がございまして、そういった施設との競合が懸念される点をデメリットとして挙げております。発展性としましては、他の場所と同様に地域の文化活動ですとか生涯学習活動の発展に寄与するという点、あと周辺の美術館、博物館と共に、文化地域としてこの一帯を形成できるのかなという点でございまして。文化的な発展が期待できる点がメリットになります。発展性という意味では、デメリットはそういった発展が期待できますので、デメリットはないというふうに考えておまして横棒にしております。経済性のメリットでございまして、用地買収や宅地造成が必要になってきますので、メリットとしてはないのかなと、薄いのかなと考えております。こういった用地買収や宅地造成、こういったことがデメリットとなり、経済性としてのメリットはないのかなというところでございまして。

以上が各場所のメリットデメリットになります。やはりどこの場所におきましてもメリットとデメリットはございまして、総合的な判断が必要になってくると考えております。

最後に12ページです。今後の進め方でございまして、今年度中に建設候補地の案を設定するための検討会を設置いたしまして、この5箇所から建設候補地の案を選定していきたいと考えております。その後、来年度以降になりますけれども、基本構想ですとか基本計画、あるいは基本設計に移っていく予定でおります。取り組みを進めるにあたりまして、市民の皆様方の意見も伺いながら進めていきたいと考えております。また、図書館と文化ホールを併設して建設するかですとか、別々に建設するかも含めて検討していきたいと考えております。以上が本資料の説明になりますが、また併せてもう一冊資料をお配りしてあるかと思っております。建替候補地の調査の冊子があるかと思っておりますが、こちらは今言った各5箇所の現況調査を行った資料としてまとめたものでございまして。こちらにつきましては説明を省かせていただきます。各場所の現況や写真も入っておりますし、詳細な位置図なども盛り込まれておりますので、お持ち帰りいただいて目を通していただければと思っております。

今後この5箇所の選定をするにあたり、現在、自動車社会でございまして、やはり駐車場の敷地を十分に考える必要があります。伊東市の地理的な特性かもしれないですが、広い平面の土地が少なく、適地がなかなかないというのが現状でございまして。他の自治体の文化ホール等々を見ますと、駐車場としては200台程度の駐車場を設けている所が多いのかなというところです。また、文化ホールにつきましては催し物がある時だけ賑わうのではなくて、普段から賑わう施設になればと考えておまして、新たに伊東市を活性化する施設の一つになっていくのではないかと考えております。そのようなこと考えていきますと、やはり人の往来が少ない場所に建設するのちょっと考えないといけないということになります。そういう意味もございまして、適地を選定するのは非常に難しい作業になるのかなというふうに思っております。皆様方からもご意見をいただき、色々考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。特にメリットデメリットは、多分お一人お一人で、私はこう思うとか、こういうメリットデメリットもあるということがあろうかと思っておりますので、その辺はまた議論の中で

色々ご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上が本資料の説明になります。

市長戦略監： ありがとうございます。次回からのグループワークの議題となります図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性について説明をさせていただきました。今後、皆様方のグループで討議していただき、その内容を検討委員会へ上げていきたいと思っております。これは、庁内のワーキンググループで検討した内容ですので、今後専門家の入った検討委員会の中ではどうなっていくかはまだ分からない状況にありますけれども、こういう方向性で市の中では考えていったということでご理解いただきたいと思います。また、特に伊東の観光会館の特徴といたしまして、一時期減りましたけれども、労働組合の大会がまた、ここ最近多くなってきてる事実もありますし、4月には中古車会社の研修が約1カ月弱、観光会館で行われて、かなりの人数が伊東の宿泊施設にお泊りいただいておりますので、そういうことも考えながら、是非どういう施設が良いのかということでご検討をお願いしたいと思います。只今の説明内容等につきまして、何かご質問ありましたら何なりと言っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員 A： 市民グラウンドになった場合なんですけれども、グラウンドはいろんなスポーツイベントで使わせていただいておりますが、工事が始まると市民がグラウンドを使用することができなくなるので、代替地等が必要となってくるとどうなのかという疑問が浮かびました。

生涯学習課： 市民グラウンドでございますが、例えば代替えを設けた場合といった具体的な検討はちょっとされていません。とりあえず適地ということで、実は市内の11箇所から5箇所にしぼりましたが、そういった細かな対応という部分は検討しておりません。適地を探す、候補地を選定するというところを中心に行いましたので、その点はすいませんがまだ検討していないというのが実情でございます。当然、市民グラウンドになった場合にはその辺も含めて検討していくことになるかと思いますが、この場ではすみませんが、お答えできないのが実情でございます。

市長戦略監： そういう意味では、代替地が見つからない場合には市民グラウンドはないという選択肢もありますので、ご理解いただきたいと思います。

委員 B： 候補地がこの5個になっていると思うんですけど、例えばいろんな条件で本当にどこも理想に合った文化ホールだとかそういったものが建設できないとなった場合、他に11個あがったと言っていたので、そちらになる可能性もあるんですか。

生涯学習課： 実は検討する前に11箇所あげたんですけれども、その後に学校、高校の統廃合の話なども出てきてまして、ここの5箇所にならない可能性も正直あります。と

りあえず市内のワーキンググループとしてこの5箇所を選定しましたので、当然状況として合わない場合は5箇所以外になる可能性もあります。

市長戦略監： 本当のたたき台ですので。今説明した通り、高校の統合とか、これから小中学校もどうなっていくか分からないので、そこまで踏まえて検討委員会の中で検討していく形になろうかと思います。

委員 C： 今、戦略監が仰ったんですが、業務分掌外であるということは重々承知であえてなんですが、その高校、小中学校の統合っていうところで、図書館や文化ホールは教育とは絶対に切り離せない部分というところがあると思うんですね。私も高校時代に県で一番大きい図書館があったところに行っていたので、勉強する上では本当にありがたかったということがあります。その図書館とか文化ホールというのは、子供たちを呼ぶ要因にもなるので、その高校の統合と絡めながら行けば、もし統合した高校が空くのであれば、その土地はかなり広い土地がありますので、そこも候補地のひとつとして挙げることもできるのではないかと思いますので、是非、県と積極的にコミュニケーションを図って、高校統合という話が幸か不幸かこのタイミングで来ているというのであれば併せて考えていただいて、将来、未来を担う子供たちの目線から見て使いやすい図書館・文化ホール、また文化ホールが高校の近所であれば、部活動で芸術をやっているところもすごく使いやすくなるので文化芸術に特化した高校というものも作れますし、図書館でしっかり勉強できれば県下で一番すごい進学校になり、将来日本を背負って立つ人材が伊東から育つことも十分あり得ると思います。そういった方々が今後地域に恩返しをするということで地域が潤っていくことも他の地域で重々あると思いますので、是非その辺のところを考えていただければと思います。

市長戦略監： そういったご意見もいただきまして、検討していきたいと思います。施設の場所等につきましては、一回図書館や文化施設を造ると、これから50年ぐらいはそこを使わなければいけないということがありますので、焦って場所を決めるのではなくて、やはりこれからの情勢とか、子供の数がどうなっていくとか、移住定住とか、色々な観点がありますのでそういう点からもまた考えていきたいと思っております。

委員 D： 私も高校の統合についての話を聞いていたので、その土地は候補としてかなり有力ではないかと思いました。それとこの5箇所のさまざまなメリットデメリットを見た時に、この事業概算の予算というか、この1から5までの候補地をどこまで積算できるかは分からないけれども、大体どれくらいの事業予算でお考えになっているのかという数字が見えていないので、その数字も分かると内容が把握しやすいなと思いました。

生涯学習課： 検討していく中で、ワーキンググループでもそういう意見が出ましたが、ここではあくまでも場所を決めることを主眼にしており、どういった建物を作るのかということは、これからの基本構想とか実施設計などで考えていくことになりま

すので、具体的な金額は正直出しておりません。建設部局に聞きますと、どういった建物を造るかによって金額もやはり変わってくるということも言っていましたので、この資料では金額としては出せない状況でございます。

市長戦略監： 今の段階でちょっとそこまでは出しておりません。

委員 E： 少々疑問に思ったんですけれども、先ほど市長戦略監も仰ったのですが、外部利用や会社の研修などもあるという話でしたが、この施設の要の目的が見えにくいと思います。観光会館の代替え施設的なものを作るのか、それとも完全に市民のために造るのかということでも、かなり絞られてしまうと思います。観光会館の代替的な物でしたらやはり1か5だと思います。もし市民の利用を主眼に置いた施設であれば、逆に住宅地の方に作ってもらった方が移動等を考えて良いかなと思うと、3とか4とかになってしまうんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。あとは市民向けでしたら、私は今知ったんですけれども、高校統合で使われなくなった跡地でもいいと思います。その辺の施設の目的はまだ決定されていないんですか。

市長戦略監： そこも含めて検討していきますが、ただ、今伊東の観光会館が老朽化していて、それを建替えということが一番の前提でありますので、伊東市という観光地の特殊性も色々あると思いますし、中途半端になってしまうかどうかは分かりませんが、市民も使っていただける中で観光客の人たちにも使っていただく、そういう物になっていくんじゃないかなと個人的には思っています。

委員 E： 基本的に観光会館本館の代替施設が第一の目的ということでよろしいのでしょうか。

企画部長： そこも含めて、伊東市にとってどういうものが必要なのかという観点で考えていただければよろしいかと思います。現状、労働組合が使っているから、では労働組合用の施設が本当に必要なのかどうかということも含めて、皆さんの一番大事な物は何かという視点で考えていただければ、特段制約はないということです。

委員 E： まだあまり固まっていないということですね。分かりました。

市長戦略監： 今、企画部長が申し上げたとおり、前例とか固定観念にとらわれずに皆さんの考えをこの場で言っていただきたいと思います。

企画部長： 少なくとも、議論はこれから始まるので、何でも思ったことを言っていただければと思います。

委員 F： 高校の統廃合が5年後ということですが、現在の施設が例えばその代替地を高校の跡地にするという前提で動くとなった場合は、観光会館はそれまで使えるの

ですか。施設の維持管理できるのか、それともその前にもうやらなくてはならない状況に来ているのかというところを知りたいです。

市長戦略監： 観光会館の現状なんですけれども、雨漏りがひどかったり、ホールの天井がかなり落ちてきており、冷暖房も壊れていまして、今全部修繕するとなると1億円近いお金がおそらくかかると思います。言い方は悪いですが、必要な所から優先順位をつけて改修をして今使ってる状況ですので、あと耐震の関係や津波の関係、そういうこと諸々を考えると現状の建物はどうなのかなというのはありません。

委員 F： 市として、あと何年間使えるかということを考えないと、高校の統廃合まで待てないのではないのでしょうか。

市長戦略監： 高校の統廃合の話が出てしまいましたが、それとは別に考えていただいた方が良いかと思います。高校は県の施設で、基本的には統廃合して一つになったとしても、残りのところは県が優先的に何に使うかということを考えるそうです。市も当然要請します、いろんな形で要望するんですけれども、じゃあこれは市に使ってもらった方がいいと県が考えた時には市の方にお譲りいただくことになると思います。しかし、いろんな条件があると思いますし、今の段階でちょっとそこは考えない方がいいのかなという気はします。

企画部長： 付け加えて発言させていただきますけれども、基本、庁内で検討しこの5箇所には絞らせていただいたものを、これから皆さんに色々ご議論いただくというのが本筋だと私は思っております。この5箇所をそれぞれ皆さんでどうなのかなというご意見を先ずはいただきたいと思います。その中でどうしてもこの5箇所では無理だということであれば、一つの可能性として高校の跡地もあるでしょうし、別の選択肢もあるでしょうという風な議論をしていただきたいと思っています。この段階で、この5箇所以外を最初から並べて検討ということではなくて、先ずはこの5箇所を検討していただいて、その中でこれ以外の選択肢の方がより良いという結論であれば、それはご意見として承りたいと思っております。

委員 G： 伊東駅前の土地について、図書館をマンダリンホテル跡地に整備した場合には駅前利便施設として整備すると記載されていますが、これは文化ホールの候補地にはならないということですか。

生涯学習課： マンダリンホテルが図書館となった場合は、他の4箇所は文化ホールです。

委員 G： この駅前便利施設というのは、文化ホールの中にといい感じですか。

生涯学習課： その通りです。

委員 H： 次回からグループワークを行うにあたって、会議を行う上で私たち委員に望まれることがあれば少し整理して教えていただきたいと思います。

市長戦略監： 先ほど企画部長が申しあげましたけれども、この5箇所の中でどこがいいのかとか、例えば伊東駅前だったらどういった物が中に含まれたらいいのかとか、マンダリンホテル跡地には図書館が最適だと思ったらこの中で文化ホールはどこがいいのかとか、その辺を含めてそれぞれの立場や出身の団体もあると思いますので、そういうこともお考えいただきながら、子供のためにどういった使い方ができるのかなど、本当にどのようなご意見でも、固定観念にとらわれずご意見をいただきたいと思います。

委員 I： いろいろ見させていただいて、また先ほどD委員も仰いましたが、やはりどれくらいの予算がかかるのかというところも私は気になります。やはり50年ないし60年位は、市民の税金等々も使われることになると思うんです。子供にその時点で借金を残すことになると思うので、やはり候補地として調べていく上で、多分細かな金額は建物の構造にもよると思いますので金額は出せないのかなと思いますが、このデメリットの書いてあるところをひとつひとつ消した場合に、どれくらいかかるのかという、例えば山を更地にしたらどれくらいになるのかとか、そういうところぐらいはやはり調べていただければというのは希望としてはあります。あとは単純に自分が思ったのは、観光会館と別館のところを立て替えたりとか、繋いで複合的な施設にするという案などはどうなんだろうというところですね。ご検討いただければと思います。

市長戦略監： 金額については、造成にかかる費用は超概算であればある程度出るかもしれないですけども、検討させてください。次回、お示しできるよう準備しますが、超概算ですのでそこはご理解ください。

委員 F： マンダリンホテルさんが持っていた源泉が敷地内にあると思いますが、それは市の所有になっていますか。

企画部長： なっています。

委員 F： 温泉を使った施設も含めた物ができるということですね。

企画部長： 出来ます。

委員 D： もしマンダリン跡地を開発することになった時に、現行の図書館の施設はそのまま維持するのでしょうか。それともまたそこも使うことを想定してプランニングをするのでしょうか。

市長戦略監： これからです。図書館が仮にマンダリンホテル跡地になった時には、今の図書館は図書館として使う必要ありませんので、別の社会教育施設にすることも可能

ですし、それもまだこれからの話になります。大体時間になりましたけれども、よろしいですか。

それでは次回につきましては、冒頭申し上げました通り、今回の説明を踏まえまして皆様にグループに分かれていただきます。そこで検討をお願いしたいと思います。次回を含めて2回程度グループワークを行っていただき、まとめた提案をグループごとに発表していただきたいと思います。また皆様からどのような提案が出るのか市長がとても楽しみにしていると申し上げていましたので、是非よろしくをお願いします。

今日お帰りになったら、この資料に限なく目を通していただいて、いろんな夢を巡らせていただきたいと思います。それではこれにて本日は閉会とさせていただきます。

事務局： 長時間お疲れ様でした。事務局から次回の日程についてご案内をいたします。

次回は6月28日木曜日となります。時間と場所は本日と同じ午後7時から8階の大会議室となります。開催通知と先ほど委員からご指摘がございました、どのような方向性でどんなことを考えていただきたいと思いますといった資料につきましても、後日送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上となります。本日は長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。